

チェロを通して夢・発見・ドラマ。NPO International Cello Ensemble Society (ICES) bulletin

# CELLISSIMO



第4回1000人のチェロ・コンサート  
The 4th 1000 Cellists Concert in Hiroshima

*The 4th 1000 Cellists Concert in Hiroshima 16 sun. May. 2010*

第4回1000人のチェロ・コンサート～広島から世界平和の願いを込めて Let there be Peace on Earth from Hiroshima

Vol.  
**16**

October.2010



## 「第4回1000人のチェロ・コンサート」のご報告

事務局 松本巧

広島で2010年5月16日(日)に行な  
いました「第4回1000人のチェロ・コ  
ンサート」のご報告が、このように遅くな  
りましたことをお詫び申し上げます。過日  
より、DVDおよび写真集の販売・お厚げ  
についての案内を申し上げており、一段  
落いたしました。

まもなく、「第4回1000人のチェロ・  
コンサート」に参加くださった全国・海外  
のチェリストの皆様へ心からの御礼を申し  
上げます。そして、このコンサートを支え  
てくださった地元行政・財界の実行委員の  
皆様、ご協賛・広告にご協力くださいまし  
た企業・団体の皆様、練習ご指導などでお

力添えいただきましたチェリスト・指揮者

の先生方、運営お手伝いや翻訳・通訳でお  
世話いただきました多くのボランティアの  
皆様、すべての方々に衷心より御礼を申し  
上げます。本言にありがとうございます。

お届けしました会報誌(本誌)はすべて  
NPO 国際チェロアンサンブル協会の会員  
の皆様にご執筆いただきました。チェリス  
トとして参加くださった方々を主に、都合  
で参加できなかった方にもお願いしました。

コンサートの規模は以下のとおりでした。  
入場者約4500名、チェリスト800名  
名(うち、海外11カ国22名)初参加437名、  
合唱20名、演奏委員会計200名。



演奏後、歓びをわかちあうゲリンガス氏と松本事務局長



写真左からウィーン・フィルのレーゼル氏、二人目はルフフトハンザ機長 A.Wunderlicht氏、ベルリン・フィルのヴァインスハイマー氏とともに

二人が広島のでで揃ってフルトを組んで演奏して下さったことだけでも意義のある、特筆すべきことでした。

今回の参加者の皆様から「次の1000人のチェロは、」このお尋ねを数多くいただきましたが、2012年が高田宮様の10年忌ですが、今のところ具体的になにも決まっています。

当日のプログラム

広島から核のない平和な世界の実現を願った私たち1000人のチェロの響きは

会場を埋めた演奏者を含め、5000人を超える人々の願いとともに貴重な訴えとして世に伝わりました。

広島市の秋葉市長からも、感謝の御礼状が届けられました。ここに主催者として



秋葉 忠利

て、改めて演奏に参加して下さった皆様へ心からの感謝と御礼を申し上げます。

さて、このコンサートには、皆様へ存じのヴァインスハイマー氏が元ウィーン・フィルの同世代のチェリスト、レーゼル氏とともに出演されました。レーゼル氏は往年のカラヤン全盛時代にウィーン・フィルのチェロパートの代表として、ヴァインスハイマー氏のベルリン・フィルでのそれと同じように同フィルを盛り立ててきた方です。ヴァインスハイマー氏は今ますます7番チェロトップの位置でしたが、今回は眼を患っていたので、その席を愛弟子の八十嶋龍三氏に譲り、その後で、レーゼル氏と同じフルトを組んで演奏されました。ベルリン・フィルとウィーン・フィルのチェロパートを何十年間もリーダーとして率いてきたお

で、案内しました「日独友好150年演奏旅行」を現在計画中です。

具体的なご案内は、年が明けてからになりますが、2011年の10月または11月に予定しています。ベルリン・フィル、そしてミュンヘン・フィルのチェリストをはじめとするとドイツのチェリストの皆様との200人規模のチェロアンサンブルを含む、演奏+観光旅行です。

会員の皆様には「第4回1000人のチェロ・コンサート」当日プログラムをお届けいたしますので、本件旅行の詳細をご覧下さい。本誌の最終号にも掲載してあります。過去2回のドイツ演奏旅行と同じような感動をきくと良き友人・仲間とともに得ていただけるものと確信します。今後のご案内をお待ちください。



# 思いの連鎖。

……チェリストたちの手記

## 参加者全員が心を合わせて世界平和祈念演奏

石川嘉一（東京、5番パート）

音楽は聴くより、自分で歌ったり楽器を演奏したほうが楽しい。しかしよく聴くのも楽しい。個人での練習は楽しくもあり、時には、いやになることもある。好きな楽曲、練習曲も自由に選び、途中で休むのも勝手にできる。

だんだん上手になり、その目標が完成すると友人や家族に聴かせたくなって、音楽をする喜びが2倍、3倍となる。練習の苦勞も忘れ、望みが次々と湧いて止めようがない。しかしスポーツと異なり、音楽にはゴールがない。終着



駅がどんどん遠くへ逃げる。

僕の理想は、音楽演奏が世の中のために役立てば素晴らしいと考えていた。一般に人間は世の中に役立つために生れて来ているはずだ。「1000人のチェロ・コンサート」は第一回（1998年）から阪神淡路大震災の被災地の復興と平和への祈りが目的で発足している。この企画の意義と目標は実に素晴らしい。老若男女、年齢の幅世界数十カ国から集まるプロとアマ。まさに前代未聞のチェロ・アンサブルとして多くのマスコミにも紹介されている。それは何よりもチェロを愛し、音楽に対する情熱の響きに誰もが感動したからだ。

その精神は発足から今回まで変わっていない。今回の広島公演は2人の優れた指揮者に恵まれ、この大世帯をまとめるのも大仕事だけと、僕たち演奏者の体の奥深くにある心を引く張り出し、全員が一丸となって演奏した。それと同時に聴衆の人たちの心も同じ。三者一丸となって広島から高らかに世界平和祈念ができたことは、演奏者にとって目標に到達できた夢のようなコンサートとなった。特にゲリンガス先生の指揮したゴルターマン作の「レリジョン」は神秘的な響きで

天体の音楽で素晴らしい演奏であった。少々心配していた「原爆」と「グナダ」のスペイン風リズムと繰り返しも、田久保裕一先生の明確な指揮で乗り越えられた。

最後に主催者とスタッフの方々、東京での技術指導の佐久間豊春氏、八十嶋龍三氏、井田俊樹氏に心より感謝いたします。おかげ様で気分よく、心強く参加できました。

## 平和を紡ぐ繭

泉素子（横浜、5番パート）

第一回1000人チェロに参加したのは、父を亡くした秋でした。季節が彩りを失い、祈るように日々を送っていた私にとって、本番に向けての練習1回1回が生活の標となりました。あれから12年、父の十三回忌の今年、第4回1000人チェロが広島で開催され、原点に還って平和への思いを新たにしています。全国から、そして海外からもチェリストが集まって来る。大きな楽譜を抱え、何の見返りもなく、ただ平和を祈る音を奏するために。もっそれだけで十分意味がある。横浜から聴きに来てくれた友人が「繭に包まれた宝物のような時間」

と表現してくれました。彼女のお母様が手術前の不安を乗り越えるために第一回1000人チェロのCDを繰り返し聴いていたということを知って、音楽の力を感じました。

1000人チェロの母体として国際チェロアンサンブル協会が発足した時、チェロを通して社会参加できる基地を得て本当に心強く思いました。ライフワーク、見つけた！これで私の音楽生活は安泰だ、と。こんな勝手な人生設計を実現してくださった皆様は心から感謝し、人手が必要な時は猫の手になれたら、さらなる幸せと思っております。



第4回の裏方のお手伝いをしました。

この演奏会のことは以前より耳にはおりましたが、知るのはいつも終わってからでした。しかし、今年4月、たまたま街でポスターを発見、早速、事務局へコンタクトしました。今年のことにはならないですが、とにかく入会手続きをしたのですが、なかなか連絡がなくなっているのかな？と案じておりましたが、演奏会直前ということと事務がかなり<sup>細かい</sup>転々していたようです。そこで、「近くだからボランティア的にお手伝いしましょう」ということになりました。「なんでもやりますよ」とデータのPCへの入力、郵便物の発送など、

もちろん広島へも前日から出かけました。昔からチェロは大好きですし、それよりも神戸で始まったこのイベントをずくっと続けてほしい、いや続けるべきだ！と思うのです。昔から神戸は学術・芸術の育たない街などと言われております。これまでもたくさんの方がいろ



ボランティアスタッフによる事務作業はリハーサル中も毎日続けました

と企画するのですが、何故か続かないのです。新しいもの好きもいいますが、新しいことを始めるより、これまでのものを継続し、育てることも大切ですね。ドカンと大口寄付でもできればいいのですが第一線を退いている身ではそれは叶わず、そこでせめて事務局のお手伝いでも思っていたんです。

私もいくつかのイベントをこなしてはきましたが、やはり「1000人」というのは大変です。それをこなす事務局長の「苦労は大変です。その情熱と粘りには敬服いたしました。現地でのボランティアの皆さんも、誰が誰に命令するわけでもなく、積極的、献身的によくやられ、とても気持ちのいいシゴトができました。

ただ今、チェロを製作中です。この楽器で次回参加するのが一つの夢です。いつどのような形でどこで開催するのか楽しみです。2015年くらいなら阪神大震災から20年、神戸大空襲から70年、そして神戸大水害から77年になります（私はこの三つの神戸大災害をこの地で体験いたしております）。「広島から世界平和の願い」も良かったですが、「神戸から（亡くなった方への）鎮魂と自然への畏敬」の念を込めてのコンサートになればいいなあ、と思っております。

## 素晴らしい音楽仲間の皆様

私は第一回・第二回・第三回と「1000人のチェロ・コンサート」に参加してきました。

大阪在住の私は、今回の第4回は初めての広島ということで参加はかなり迷いました。また、私の仕事はサービス業ですので土日の公式練習と本番への参加は大変困難な状況なのです。本当に長い間、迷いに迷い、悩みに悩みました。

しかし、今までも相当無理して参加した結果、素晴らしい経験と思い出を作ってきましたので、今回もチャレンジしようと思えました。

指揮者がダヴィッド・ゲリングス先生というのも魅力的ですし、何よりもコンサートマスターが憧れの林俊昭先生だということが参加を決めた一番の理由でした。また林先生と一緒に弾けるぞ！……と考えていると、私の弾くパートは先生と同じになり、とても嬉しく思いました。それだけに自分でも驚くほど練習しました。無理に無理を重ね、策に策を施してやっと公式練習も本番も参

## 鍛冶本建二（大阪、一番パート）

加することができました。

田久保裕一先生の指揮は公式練習でも本番でも素晴らしく、楽譜の間違いを指摘される姿は驚きの連続でした。

そしてゲリングス先生の指揮も本当に素晴らしく、「心をこめて……もつと心をこめて」と言われていたことがとても印象的で、楽譜を超えて私たちが音楽の世界に導いてくださいました。そして私たちがアマチュアだということは音楽にはまったく関係ないということがすぐにわかりました。「みんなアマチュアなんだから

……みんな趣味で楽しく弾いているんだから……」という考えは一切なく、どこまでも音楽のためにという想いは、私たちに実力以上の音楽を引き出してくださいました。その真摯な姿は以前に一度だけ経験したことがあります。第3回



のロストロポーヴィチ先生です。超一流の演奏家の秘密を少しだけ知ることができた瞬間でした。

私はなかなか完璧な演奏はできず、弾けていなかった部分も多かったと思いますが、今の自分にできることはすべてやったので、その部分に関しては悔いはありません。毎回思うことですが、次回はおっとレベルの高い演奏をたいと思います。

今回もかなり無理をしての参加でしたが、やはり参加して良かったです。きつと私と同じく、一人ひとりの参加者にもそれぞれ

## 初参加でした。

激動のIT業界に身を置き、仕事一途の人生を歩んできました。気がつくとも54歳。そこにチェロが待っていました。それから9年経って63歳になりました。

1000人のチェロには、第3回も参加しようと思つて練習会場まで行きました。でも、とても自分に弾けると思わず、お誘いにも無言で答えました。そして今回、意を決して参加しました。

練習は一生懸命やりました。本番直前になつて、やつと弾けるよ

ら世界へ」を弾き終わったとき、真つ先に思ったのは「感謝」でした。まずは松本さんへの感謝、スタッフへの感謝、聴いてくださったみな

## 感動を新たに、ゲリンガスの「鳥の歌」！

第一回の1000人のチェロ・コンサートは、パブロ・カザルスの没後25周年、彼がチェロを通じて訴え続けた世界平和と、阪神・淡路大震災復興への祈りを込め、「12人のベルリン・フィルのチェリスト」であるオットマル・ヴォルピッキーの独奏により、カザルスの「鳥の歌」で始まった。第2回目はマエストロたちによる合奏で、そして今回はダヴィド・ゲリンガスの独奏で始まっている。まさに「鳥の歌」は音楽を愛する人たちの心結び、世界のチェリストによる壮大なハーモニーの原点となった。

私とチェロとの出会いは、大学卒業後しばらくして、カザルスに学びコレドール著の「カザルスとの対話」の訳者でもある今は亡き佐藤良雄先生にお会いした時に、「チェロは人生を変えますよ。今からでも遅くない、簡単に弾けますよ」と言われ、楽器を選んでいただいたのがきっかけだった。しかしながら、これほど難しい楽器は他にない

れの想いがあり、ドラマがあつた演奏会だったのではないでしょうか？

私たち出演者の「第4回1000人のチェロ・コンサート」は終わりましたが、スタッフの方々はまだまだ残務があると思います。心からありがとうございますという気持ちでいっぱいです。第5回も開催できれば素晴らしいですね。いや、いつかきつとやりましょう。また皆様とお会いできる日を楽しみにしています。

## 片貝孝夫（埼玉、11番パート）

うになりました。そして臨んだ本番。美しい音の中に埋もれて、この曲を自分でも弾いているのが信じられないような気持ちになりました。

「原爆」の「父を返せ、母を返せ」のところは、恐ろしい顔をして弾いていたと思います。最後の「広島か



「原爆」を作曲した古屋さおりさんも、最後に紹介されました（立ち姿の黒服）

さんへの感謝、家族への感謝、仲間への感謝でした。カザルスのように、チェロを武器として平和のために戦いたいと思いました。

## 角家義樹（神戸、2番パート）

のではないかと思われるほど思う音が出ない時期が続いたが、時々出る美しい音の片鱗に希望を抱き、時間があれば弾いてきた。そして数々の曲に挑戦する中で、カザルスの「鳥の歌」は、単純な旋律ながら実に神々しい美しさを備え、弾くたびに涙が出るほど感動し、今も練習のたびにごとくに弾いている。何度弾いても飽きない不思議な曲だ。

という次第で、「鳥の歌」で始まる1000人のチェロ・コンサートにとっぴり嵌まり込んでしまい、林俊昭先生のご指導を受けていたこともあり、第一回から参加させていたたいしている。

さて、このたびのゲリンガスの「鳥の歌」は、まさに我が心洗うような美しい演奏で、私にとつて大きな感動だった。ゲリンガスの手にかかると、まるで木立の中をさまよつた人が、小鳥の声に導かれていくように、まさに、カザルスが「カタロニアの鳥はピース、ピースと鳴くのです」と言っていた言葉を新たに実感した。あれだけの素朴



ゲリンガス氏の隣が角谷氏。  
広島での公演を提案された方です

な聴きなれたメロディでありながら、今やとても新しい音楽として私の心を捉えている。今回の広島でのゲリンガスの演奏は、チェロという楽器の奥深さを再認識し、今後とも楽しみながら、少しでもゴールに近づいて行きたいと思っただコンサートであった。

スポットライトを浴びたゲリンガス氏の「鳥の歌」。心にしみいる演奏となりました



## 広島の1000人チェロに参加して

2010年5月16日、ともかく広島からチェロのアンサンブルで世界の平和に向けて、いささかのアピールができたことは素晴らしい出来事であった。

平和記念公園近くのグリーンアリーナ、会場いっぱいにはチェリストが並んだ光景は壮観である。2階観客席には、ほぼ満席に近い聴衆が目に入った。

冒頭、ゲリンガス氏の「鳥の歌」は、ため息の出るほど美しいソロで、いまだに耳元にハッキリ残っている。「爆心地世界にとどけ鳥の歌」という心境で聴き入った。正に広島に相応しい名演奏であった。

参加者の古屋さおりさんが作曲された「原爆は、練習段階でも改訂が加えられ、地元の子童合唱団が「水をください、父を、母を、私につながるすべての人を返せ」と、迫真の叫びに声を合わせた。また痛ましいケロイドや黒い雨もチェロで表現し、原爆の悲惨さを訴える素晴らしい作品に仕上げるこ

## 角谷輝彦（新潟、3番パート）

ができた。「チェロのためのレクイエム」を作曲した三枝さんとは広島のために新たなレクイエムを書き下され初演となった。嗚咽するような深い悲しみ……。前作に続き、胸に響く名曲である。1000人チェロの財産がまた一つ増えた。

中間にグラナダの「アリア」を入れたことも良かった。「パッサカリア」、「ヒムヌス」や敬虔な「レリジオン」では、熱いものが込み上げて心底感動した。全員が気持ちが一になる素晴らしい演奏も実感することができた。

しかし、何曲か本番直前まで続いた楽譜の変更には、いささか閉口させられた。これは指示が伝令式であったため、全員に徹底できなかったことが残念であった。そのせいか練習の時より音がいくぶん濁ってしまった反省がある。この場合、パトリーターが最後部まで一人ひとりに駆け寄り、責任をもって徹底させる必要があったのではないかと思う。

思えば、練習に東京へ泊りがけ新幹線通乗、譜面の難しいところも少しずつ弾けるようになったことや、翌朝は築地で朝鮎を食べる楽し

みなど……。

広島では懐かしい方にも大勢お会いすることができた。片道1000キロの道のりを車で行き、運転がつくづく嫌になったことなど尽きない。

この広島大会は、実行委員長を引き受けてくださった原田先生のお力がなければ実現はできなかったと思われる。

## チェロコンサートに参加して

広島から世界平和の願いを込めてくを指して開催された、第4回1000人のチェロ・コンサートに参加させていただき、私は感動・満足感とともに、永年の思いを叶えることができました。そして七月に喜寿を迎え、八月六日は六十五回目の原爆の日でした。この投稿では、その永年の思いを書かせていただきたいと思えます。

広島に原子爆弾が投下された時、私は国民学校（小学校）六年生でした。爆心地から東に十キロ離れた、海田市町で原爆の炸裂を体験しました。それはものすごい光で、瞬間に気を失い、直後に轟いたであろう爆音は、全然覚えがないのです。気がついてみると、西の空に大

コンサートは成功した。しかし運営面では赤字であったと聞く。確かにあれだけの規模で、スタッフの人員や経費は膨大であることは容易に想像がつく。だが、この種の会が赤字では存亡に係わる。収支のことは分からないが、参加者として責任を痛感する。ひたすら会の存続を願わずにはいられない。  
若葉映え癒しと祈りチェロ響く

## 國清博義（広島、12番パート）

ききキノコ雲がもくもくと立ち上がっていて、「広島で何事が起こっただろうか」と、町中騒然となりました。

三歳年上の兄は、この日学徒動員で、家屋疎開に従事していて被爆し、家に帰ってきたのは午後六時でした。背中全体に火傷を負っていました。家族必死の看護もむなしく、二週間後に亡くなりました。我が家では、その日から悲しく寂しい日が続きました。

伯父にヴァイオリンを貰って、音楽の勉強を始めたのは、その二年後でした。先生と二重奏ができるようになったときに、「この世の中に、こんなにきれいで楽しいことがあったのか」と思った反面、高校の進

路指導では、「音楽では家族を養えないよ」と言われました。多くの先生から音楽の基礎教育を受け、いろんな形で音楽の素晴らしさを体

得し、教職に就いてからは、「一人でも多く、音楽の好きな生徒を育てよう」と努力しました。

あの日から、日本は平和が続き、文化・経済が発展して、思う存分音楽を楽しめる日が続いています。

でも、兄をはじめ、戦争犠牲者のことを忘れてはいけません。

チェロ・コンサートの曲目には、原爆、シヒロシマのために、クレイテムムとあり、私は感謝の心を込めて演奏しました。聴きに来て

## 今も思い出す達成感と満足感

思いがけずも大きな感激をいただいた一人として投稿させていただきます。

私は子どもから還暦祝いに何が欲しいかと聞かれて、また触ったこともなかったチェロを挙げました。何となく落ち着いた良い音色に、もし弾けたらどんなに素晴らしいことだろうと思ったのです。そして、どっしりとしたチェロを抱いたときは、嬉しきとともに値段を聞

いただいた多くの知人は、異口同音に

「過去を思い、涙が出た」

「あのチェロの音色に感動した」

「立派な演奏会をありがとう」

と言ってくれました。



原爆ドームを訪ねたヴァインスマイヤー氏（右）と左は弟のW.ペーター氏

## 黒田邦美（広島、12番パート）

いて、これはお蔵にしておし訳ない、ちゃんと習わなければ申し訳ないとRCC文化センターの教室に走りました。同室の生徒は私の娘や息子の年齢で、4人の皆さんに迷惑を掛けるのではないかと心配になったほどでした。

それからの年間、広響の良い先生のご指導によりバッハの無伴奏や「白鳥」、「G線上のアリア」などたくさんさんの素晴らしい曲がそれなり





に弾けるようになりました。  
69歳の時ピアノが弾きたくなり、チェロの教室をやめて、一年間大人のピアノ教室に入りました。「星に願いを」の弾き語りや「枯葉」の演奏ができるようになり、楽しんでおりました。そんな時、その後もチェロの教室を続けておられる女性からの今年の年賀状に「1000人のチェロに参加してみようよ」との誘いがあり、気軽に申し込みをした次第です。  
ところが私にとって最初の練習の2月11日の公式練習で自信をなくし、その晩、年賀状をい

## 10数年ぶりの「演奏」でした

学生時代、ちょっとしたきつかけから当時専攻していたピアノを人前で弾くことが怖くなりました。卒業後、細々と続けていくつもりでしたが、徐々に演奏から遠のき、おそらく今後、人前で楽器を弾くことはないだろうと思いかけていた時、第3回

ただいた彼女にSOSメールを送った次第でした。彼女から「一生に一度のチャンスかもしれない。9年間習ったチェロ教室から5人の懐かしい生徒が参加しているじゃあないか」と励まされました。やる気になった私は、協会の松本事務局長にメールでメロディパートの楽譜もお願いしました。CDを聴きながら12番パートを弾くのですが、マツチングしているのかどうか分からなかったからです。メールで送られた楽譜をコピーして12パートのそれと並べてマツチングさせ、そしてCDを聴くとかなり良く分るようになりました。秋津先生、分奏を担当してくださった永山先生、そして心の支えとなったチェロ教室の仲間の皆さん、本当にありがと。 (写真前列左が広響の伊藤先生、後列左から右端が参加を誘ってくれた、八百屋さんです)

## 向後 由美 (東京、10番パート、ストリング編集部)

1000人のチェロ・コンサート(2005年5月22日)の取材にうかがいました。

仕事上、毎日のように何らかの形でチェロに接してはいましたが、1000人のピアノニッシモの美しき、チェリスト同士のあた

たかい雰囲気、この二つは、その時の取材で初めて知りました。その後、どうしてもあの「チェロの輪」に入りたいと思うようになり、思い切った習い始めたものの、残業や休日出勤の多い仕事との両立は想像以上に難しく、練習ははかどりませんでした。今回、参加した広島でのコンサートは、お客様の前でチェロを

弾く初めての機会であり、10数年振りの「演奏」でした。自分なりに努力し、達成感はありませんが、「演奏」と言えるほどのできてはなく、たくさんの方々にご迷惑をおかけしたのではないかと思います。

励ましの言葉をくださった皆様、会場で弦が緩んだり、取材道具とチェロの重さによりけたりしているところを助けてくださった皆様、1000人のチェロ・コンサートを主宰・運営される松本巧様をはじめスタッフの皆様、そして本番の日、会場で時間を共有した皆様に心より感謝申し上げます。それから、仕事より練習を優先させてくれた編集長と、家事を手伝ってくれた夫にも。

今回のチャレンジは少々無謀だったよう

指揮の田久保先生と一緒にストリング編集部の向後さん



向後さんの記事は、ストリング7月号と8月号の2号にわたって、紹介されました。さすが雑誌の強みです



毎月25日発売 B5判  
定価840円(税込)  
バックナンバー購入および  
年間予約はWEBサイトをご  
覧ください。  
<http://www.lesson.co.jp/>  
〈問〉tel.03-3393-5921(代)  
ofc@lesson.co.jp

## 今回は、ぜひとも参加を目標に掲げ、がんばります

島田 育子（富山）

私は子どもの頃から音楽が大好きで、小学校での器楽クラブを皮切りに、学生時代と社会人時代は、合唱部に所属しながら筆の勉強を続けてまいりました。ところが結婚を機に、音楽からは遠ざかっておりました。子育ても少し落ち着いてきた頃、当時10歳の息子と親子チェロを始める機会に恵まれ、さらに市民オーケストラにも所属しながら、今まで2年間、チェロを続けてまいりました。

そして、チェロを始めて9年目の春、当時、才能教育研究会の指導者であった参納純三先生と山下理事から、第一回1000人のチェロ・コンサートへ参加してみてもとお誘いをいただき、以後、第2回、第3回と参加し、日韓親善チェロ・コンサート横濱公演にも参加することができました。

1000のチェロ演奏は、個人やオーケストラ演奏とは違った魅力があります。自分の音の響きが隣の方の音と響き合い、さらに12のパートと重なって生まれる力強い音色。その音色は言い表すことができないほどの

轟音となり、演奏後しばらくは、身体の中から音が響いてくるような感覚にさえなります。その間、コンサートを思い出させてくれる醍醐味は、ほかでは味わうことができません。

ところが、定時総会が富山で開かれた2009年、私はすべてのチェロ活動を中断し、義母の介護にあたっておりました。介護の日々が続く中、第4回コンサートのご案内をいただいても、参加できない私は、残念無念の心情でした。しかし、義母が元気にやえなれば再びチェロができる、と介護に渾身の情を注ぎながら、チェロへの想いを強くした時でもありません。

そして、第4回1000人のチェロ・コンサートが大盛況での終了を知った時には、胸を撫で下ろし、心穏やかになったものでした。家族の支えもあり、介護を続けつつも、今春からは再びチェロ活動を始めております。チェロを弾くことができ、音楽の奥深さを追求できることに、心から感謝する日々です。そして今は、次回コンサートへの参加を目標に掲げ、練習に演奏にと取り組める幸せを感じております。



## 感動と歓びのチェロコンサート

鈴木 孝道（大阪、11番パート）

神戸で開催されてから、第2回・第3回・第4回と毎回の参加も感動と歓びのコンサートでした。

今回、広島でのコンサートは被爆65周年を迎えるヒロシマから、平和を願う「カザルスの心」をそのまま世界に響かせる意義深いコンサート。わたしは名曲演奏の中でも「原爆」の児童合唱団・少年少女合唱団の歌声には「あの日」を甦らせ心を震撼させる歌声として、1000人のチェロの響きとともに、感動の胸を熱くした忘れがたい演奏でした。

広島は、私の小学校在職中に児童とともに修学旅行たびたび訪ね、平和記念公園の資料館や慰霊碑、原爆ドームなど、子どもたちの心にも平和への強い願いと忘

れがたい思い出を残したところです。中でも、「原爆犠牲国民学校教師と子ども

の碑」には「太き骨は先生ならむそのそばに小さきあたまの骨あつまれり」との碑文があり「校長先生も国民学校三年生のとき原爆が落

とされたんだよ」とあの頃を話してやったことを「原爆」の合唱を胸にして思い出しました。ヒロシマの地から世界に向けて、平和を愛する1000人のチェリストたちが奏でる平和の調べ「第4回1000人のチェロ・コンサート」も感動と歓びいっぱいこのコンサートでした。



NHK 広島児童合唱団と広島ジュビター少年少女合唱団も加わったハーモニーの美しいこと！

## 第4回1000人のチェロ・コンサートに参加して思うこと — 曾木新六（東京、4番パート）

私は、最初から、毎回参加させていたたいっている者です。

第一回での想像をはるかに超える感動以来、1000人のチェロ・コンサート参加を私のライフ・ワークにする決心をしました。

以降、毎回いろいろな経験や出会いがあり、決して色褪せることのない感動があります。もちろん、それは、参加しなければ味わえない1000人のチェロの響きが中心にはありますが、それだけでなく、他では滅多にない、清々しい心のふれあいがあります。今回も、私に

とりまして、大変印象深いふれあいがありましたので、その一端を紹介させていただきます。

2月の東京の分奏練習日、私は偶々、高田寺の公民館の音楽祭りに誘われて、チェロを持って出かけましたが、帰りの高田寺のホームで、偶然、分奏練習に参加の方々と一緒にになり、車内で初対面のJさんから「分奏練習に参加された方ですか？」と声を掛けられました。彼女は、初めて参加とのこと、いろいろな話の中で、前回のロストロポヴィチさん



指揮の練習で、委託作品のあるピアノシモのフレーズに、さしかかった時の話をしました。「もつと小さな音で」と何回もやり直しがあり、「風を感じてください」と、最後に「ほったて風を感じてください」と言われた後、まるで魔法にかかったように音楽が劇的に変わった話をしました。Jさん曰く「お聞きしただけでゾクゾクしますね」。その時は、楽しく練習しよう、と、別れました。

快速電車に乗り換えると、そこでも、初対面・初参加のJさんと一緒にになり、八王子まで、同じような話を盛り上がり、別れ際、『よろしければ、時間のある時、拙宅と一緒に練習しませんか？』と声をかけました。日を置かずJさんからの電話で練習の日取りが決まり、Jさんには当日の朝になって、声をかけし、三名の練習になりました。その日は、Jさんに同伴されたご主人も一緒に時を忘れて、夜まで楽しい練習や語りが続きました。

世の中には、いろいろな出会いがありますが、こんなに短時間で気持ちに通じ合うことは、私には滅多にないことです。参加された皆様の中にも、他の集いとは、どこか違う、心の通じ合う思いをされてい

る方も多いのではないのでしょうか？

このような1000人チェロの側面は、次回へのエネルギーにも繋がりが、他の音楽活動など、次々に善の循環のように繋がるパワーを秘めているように思えます。

阪神淡路大震災の復興支援のスタートが、回数を重ねながら幅を広げ、1000人チェロ特有の文化も育っているのではないかと、思うようになりました。

そのように思う時、この幸せな出会いに恵まれた感謝の気持ちで、

## 1000チェロ広島コンサートに参加して



五十の手習いとして、昨年11月からチェロを習い始めたのが、57歳の誕生日をちょうど迎えたころ。この世界ではライトスターターというのだそうだが、ピアノやヴァイオリンと比べて、チェロではライトスターターが多いような気がする。ともあれ、周囲に弦楽器を弾く仲間もおらず、無我夢中で始めた。今はインターネット

どのように表現したら良いのか術を知らませんが、1000人チェロに参加し、心を合わせて、音楽を作り上げる過程の中の音楽の喜びの他に、1000人チェロの理念にもある、世の中の平和や幸せを祈ることへの連帯感や、勇気のようなものを身近に感じてなりません。最後に、毎回の開催にご苦労されている方々への心からの感謝を捧げますとともに、次回も何卒よろしく、お願いいたします。

## 高橋明（仙台、13番パート）

の時代なので、ビデオでそれこそ手取り足取り教えてくれる。そのようにして数ヶ月過ぎた頃、「1000人のチェロ」のホームページを見つけた。まずその規模にびっくり。チェロを抱えて1000人も人が集って、演奏会をする、ということは、ほとんど信じがたいことだった。そしてその音色。チェロだけでアンサンブルをするこのように、うな太く太く纏った縄のような音が出るのか、と感動した。さらに、そのコンセプトにも共感した。阪神淡路大震災の被災者を励ますため

に始まり、その精神は、カザルスやロストロポーヴィチからも影響を受けている。

ぜひ自分も参加したいと思った。主催している国際チェロアンサンブル協会の案内を見ると、「三年程度の経験」という条件が記されている。他の条件は自分で気をつけなければよいことだから何とでもなりそうだが、チェロ歴についてはどうにもならない。「三年程度」というのは、次の開催がどうなるかわからない、自分がその時にまだチェロを弾いているかもわからないという状況では、とても厳しい条件に思えた。おそろおそろ「まだ習い始めて数ヶ月のひよつこだが、何とか参加できないか?」とお伺いした。電話をしたのだが、担当の方は「他の約束事が守れるなら、大丈夫」と請け合ってくれた。

という経過で申し込みをすませ、仙台の公式練習や東京の分奏という練習会に参加。広島には演奏会の前々日の5月14日に入り、14日の夕方、15日の午後と夕方の3回の公式直前練習に参加。公式練習4回参加という条件もクリアすることができた。その間、たとえば仙台の公式練習で思わぬ知人に会ったり、東京で同じ会場に向かう多くのチェリストに接したり、広島に向かう新幹線で一緒に乗せられているたぐさんのチェロに驚いたり、普段は絶対経験できないような貴重な

## 1000人チェロ広島大会に参加して

前回の大会はチェロアンサンブル協会の友好団体である(社)日本アマチュアオーケストラ連盟(以下JAO)の理事長代理で来賓として、オープニングの行事だけ参加させていただきました。その時は松本巧事務局長の集金力、動員力に圧倒された印象が強く残っています。その後NPO総会、笠岡市でのコンテストなどに参加させていただきます。今回の広島での開催に注目しながら、少しばかり運営のお手伝いをさせていただきました。もちろん演奏者としては初めての参加でしたので、愛知県豊田市での練習会など楽しく参加いたしました。毎回参加している方からは、似たような選曲だという声を聞きました。

たが、初めて参加する者から見れば、よく考えた素晴らしいプログラム構成と感じました。おそらく聴衆の広島市民には感動的な演奏会であったと思います。

後日、三枝成彰さんにお会いした時、彼なりに作品に思い入れがあったのかと感じ、私たちが作曲者の思いを感じ取った演奏ができたのか



経験と出会いがあった。

せっかく世界平和を訴える機会ということで、小生が参加している「みやぎ医療者九条の会」から補助をいただいで、憲法九条を守るパレットの販売などもさせていただいた。カザルスが国連総会で「鳥の歌」を弾いて平和を訴えたのとは比べべくもないが、それなりの手応えがあった。

本番の演奏は、それこそ夢中で、ほとんど何も考える間もなく、あつと言つ間に終わってしまった。前半の田久保裕一さんのきつかりとしていて、情感あふれる指揮。後半のダウウィッド・ゲリンガスさんの情熱あふれるアーティスティックな指揮。それぞれの個性を堪能しつつ、自分がこの歴史的瞬間に立ち会っている幸せを痛感した。多くの出会いと感動に感謝しつつ、今後も世界に類例のないこのイベントが安定的に継続するよう強く願っている。

追伸：先週米国のテキサス、ヒューストンに仕事で行ってきたが、あらためて1000人のチェロコンサートのことを話したら、ありえないこと、信じてもらえなかった。国際的なイベントなのだから、せめてホームページも多言語対応すると、さらに反響が広がるものと確信する。ぜひ検討してもらいたい。ブログ 五十のチェロ：<http://50cello.blogspot.com/>

## 高橋憲治(名古屋 5番パート)

と嬉しくなりました。また、5番チェロはチェロらしい音域でオーソドックスなパートという印象を持ちましたが、三枝さんと話していると、次回は最低音域の4パートが面白いのではないかと感じました。

JAOにも毎年全国大会を各地で開催していますが、地元の主幹オーケストラにおんぶにだっこで、事務局は離れているということ、2〜3回打合せに出かけて済ませています。それでもいわゆる常連の参加者のおかげで、なんとかスムーズな運営ができております。1000人チェロも最後は常連さんの方で盛り上がりを見せています。

事務局の会員維持管理は大変かと思いますが、やはり1000人チェロは常連11会員11000人であってほしいと思います。そうすれば、1000人チェロは4〜5年に1回でも、毎年ブロック単位で何らかの活動が定例化するのではないかと考えます。

毎年のJAO全国大会に10年関わってみて、常連の継続性というのが常連の世代交代がうまくいくように運営がなされると、いろんな企画が生まれてくるような気がします。そうすることににより、新しい出会いがあり、新しい会員が生まれてくると考えます。

## 1000人チェロ・コンサートを終えて

田中洋子（広島、2番パート）

今回会場が広島ということもあり、初参加させていただきました。申し込みも遅く楽譜が届いて、2番パートの内容を見て焦りました。

自分の技術の未熟さもあり、とても不安になりました。分奏や公式練習で先生や出席者の方々の指導をいただき、少しずつ不安も取り除かれました。練習している間に右手親指に胼胝ができていました。弓の扱いが上手にできなく、右手に力が入りすぎていたようです。

本番当日にたくさんの方との出会い、ダ



ヴィット・ゲリンググス氏の「鳥の歌」は、体が思わず震えるほど素晴らしい音色で、とても感動しました。そしてたくさんの人たちと平和に向けてのアピールができたこと、一生の思い出になりました。それと同時に、今までの何気ないチェロの練習をしていた自分に気づきました。1000チェロコンサートを終えて、たくさんの方の課題、そして宿題をいただいたこと、これからは、焦らず少しずつ技術的なことを勉強していきたいと思います。ご指導いただいた先生方、NPOのスタッフの皆様、ありがとうございました。深くお礼申し上げます。

## 1000チェロ広島コンサートに参加して

田辺幹夫（岡山、5番パート）

平成10年の第一回1000人のチェロ・コンサートに参加して以来、今回の第4回で早くも12年経ちました。その間に私も年をとって、今年83歳。松本さんから今回参加の約1000人中の最高齢と聞かされ、びっくりしました。こんなに大勢の中には高齢の方も大勢おられると

思うのに、選りによって私が最高齢とは。このことを皆様に紹介されるようなおぶりでしたが、恥ずかしいので紹介なして済ませていただきました。

思えば昭和23年（1948年）に初めてチェロを手にしてから60年



余り、よく続いたものと我ながら感心しています。現在倉敷管弦楽団、玉野楽友協賛管弦楽団、笠岡の閑人会に所属していますが、これだけあると、それ、こちらの定期演奏会、それ、あちらの何とかの演奏会と次々出てきて本当に忙しい思いをしています。

この先いつまで続くか分かりませんが、これ

まで通りがなばっていきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

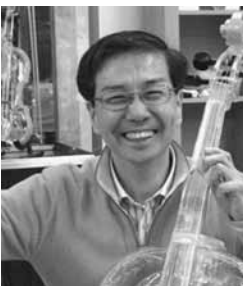


## 1000人のチェロ・関西のメンバーで「大阪チェロアンサンブル・ミレ」結成 田丸一男（兵庫、13番パート）

回る48人もが集り、目指すは来年5月の『第6回チェロアンサンブル・コンテストinかさおか』（岡山県笠岡市）での演奏です。

★「明るく、楽しく、にこやかに」楽しみながら、アンサンブルの醍醐味を！

アンサンブル主宰者の吉川秀樹さんは、普段は小学校の音楽教諭。その丁寧な指導には分奏会でも高い評価がありました。その吉川さんの誘いに今回48人も参加希望。若干、年配の方が多いのですが、4つ



関西から1000チェロに参加したメンバーが、チェロアンサンブルを結成しました。大阪分奏会参加者を中心に、継続的にアンサンブルをしていこうと、大阪分奏練習のリーダー、吉川秀樹さんの呼びかけがあり、9月から月に一度の活動を開始。チーム名は「大阪チェロアンサンブル・ミレ」。ミルとはフランス語で「1000」。1000人のチェロ・コンサートにちなみました。予想を上



のパートの人数、バランスもよく、高い演奏レベルが期待できそう。スケールやハーモニー（和音）など基礎練習からきっちり指導くださり、「フランク組曲」「カッチーニ・アヴェヴェ・マリア」などクラシックから「見上げてごらん、夜の星を」「北の国から」「イエスタデイ」など多岐にわたる曲を4パートで、毎週4時間みっちり楽しみます。

### ★毎回充実の練習後のアフターチェロ

アンサンブル結成記念の懇親会が大いに盛り上がりました。梅田のピアホールで飲み放題の90分。メンバーはアマオケなど一線で活躍する方も多く、日頃のチェロライフを楽しくスピーチ。皆さん本当によく喋り、笑い声の絶えないメンバーです。今後、コンテスト参加や発表会、そして次の1000チェロへ向けて、とにかくチェロを楽しもうとスタートした「なにわのアンサンブル」。広島の1000チェロでは控え目だった関西のメンバー、このアンサンブルを中心に、全国に名だたる「強力アンサンブル軍団」を目指します。

詳しくは私のブログ「田丸一男のColoに夢中」(<http://cello.exblog.jp>)で随時リポート。どうぞ注目してください。

（大阪チェロアンサンブル・Colo）広報委員：田丸一男

## チェロコンサートが結ぶ人の縁

今年、広島で開催された第4回1000人のチェロ・コンサートに参加した。1998年の第1回、2005年の第3回、その後の中越地震復興支援コンサートを数えると、今回で4回目の参加である。

私は1945年2月の生まれて、生年に起きた出来事は自身記憶にあるはずはないが、誰でも印象は強いものがあると思う。この年の広島・長崎に起きた悲劇や終戦といった一連の事件は自分の人生の出発点であるように感じる。今度のコンサートが広島で開催されることになり、躊躇なく参加を決めたのもそのためである。

考えてみれば、1000人のチェロ・コンサートは、これまで私の人生のちょうど節目に当たる時期に開催されてきた。1995年、あの不幸な阪神・淡路大震災が起きたのが50歳の直前、2005年は還暦、そして長かった勤め人生活から身を退いたのが今回で、何か不思議な縁があるような気がする。

このコンサートに参加するたび味わう大きな歓びに、事前の練習、本番それぞれの機会を通じて得られる、人との出会いがある。以前に



アンサンブルに懇親会に精を出す「大阪チェロアンサンブル・mille」。新しいパワーが伝わってきます



## 中西公一（東京、2番パート）

合奏した旧知の方々との再会も楽しみだし、チェロアンサンブル初参加の方々を知りあうことができるのも素晴らしい。そして今回も、多くの人との出会いとともに、私にとつてとりわけ嬉しい邂逅があったことを紹介することとした。

3月22日、東京新橋で分奏練習が行われた時のこと、休憩時間に名前を呼ばれて振り返ると、なんと30年ぶりの顔、旧友、Mさんではないか。私より先輩だが、失礼ながらほぼ同年輩と違ってよいMさんとは、勤め先は異なるものの同業種の金融関係で、1970年代末にともにメキシコに駐在し、時々飲食を伴にし、若い時期の初めての海外生活の苦労を語り、家族くるみて親しくしていた長い間柄である。その後は、それぞれ別の国に駐在赴任を繰り返すなど長い間ずれ違ひとなり、自然に音信も途絶えていたのだが、お互いチェロを弾くとはまったく知らないまま、1000人チェロで図らずも30年ぶりに再会を果たしたことになる。早速その日、Mさんのお仲間も交え昼食を伴にし、また5月5日、吉祥女子校での分奏練習終了後は、近くに住むメキシコ時代の共通の友人を呼び出して夕食をと

り、懐旧談を楽しむなど旧交を温めたことはいうまでもない。

孔子の言に、「友あり、遠方より来る、また愉しからずや」というのがある。論語などすっかり読んだことはないが、なぜか気にかかっていた言葉である。親しい友が遠くから訪ねて来てくれる、嬉しいではないか、というのは、当たり前過ぎて、どうしてこれほど人口に膾炙されるのか、訳が解らなかつたのだが、Mさんとの再会で、その嬉しさ、懐かしさ、ようやくこの言葉の持つ重みが腑に落ちた心地がした。

Mさんは、2005年神戸での第3回コンサートの会場にはいたが、その時は出演せず、次の機会には、ということでも今回初参加となったとのこと、思い立ってチェロを始めたのが還暦過ぎて、現在熱心にレッスンを続けるほか、何と弦楽器製作専門家の指導を受けて自

分用のチェロまで製作中、とのこと

である。人生や物事に対する情熱と積極的な取り組み姿勢は心から敬服に値する、誠に貴重な友人である。仕掛中でまだ見せてはもらえないが、いつかそのチェロが完成し指を触れさせていただけの日を楽しみにしている。

(なお、ご本人のご了解をいただいたのでここに記すと、Mさんとは12番パートで参加された、宮本昭八氏です)

## 第4回1000人のチェロ・コンサートに参加して

中村幸太郎 (笠岡、7番パート)

私は、息子の康乃理と一緒に、第一回から4回連続の参加となりました。第3回と今回は、岡山県と広島県東部地区などを対象にした分奏も、親子でお世話させていただきました。

今回の演奏会は、初めて神戸を離れて広島で開催するということで、地の利の面ではある種ハンデイがありました。初めて参加した人が半数近くいて、予想を上回る900人超の申し込みがあり、さらに、

会場のキャパの違いはあるにせよ、今までの3回を上回る4000人超の観客に聴いてもらえたということは、非常に喜ばしいことでした。私は7番パートを弾かせてもらったおかげで、このコンサートで提唱した元ベルリン・フィルのヴァインスハイマーさんと元ウィーン・フィルの楽団長のレーゼルさんとい

ンブルの輪を抜けていこうと思っています。

私の地元の岡山県笠岡市では、審査委員長に日本チェロ界の重鎮「松下修也先生」をお迎えして、2004年から「チェロアンサンブル・コンテストinかさおか」を開催しており、来年の2011年5月15日(日)に笠岡市保健センター「ギヤラクシーホール」で、「第6回チェロアンサンブル・コンテスト」を開催する予定です。今回の1000チェロでできた繋がりにより、大阪でもチェロアンサンブルの練習が始まり、来年の「チェロアンサンブル・コンテスト」への参加表明をいただきました。第一回の1000チェロが縁で組織された地元チェロアンサンブル「閑人会」も、今回の1000チェロで新たな繋がりができ、参加者がかなり増えました。

という、カラヤンの全盛時代、いわゆる「カラヤンサウンド」を支え、彼とともに全世界を相手に活動してきたお二人と同じパートで、しかもお二人のすぐ後ろの席で弾くことができ、カラヤンファンである私にとっては、本当に夢のような体験でした。(お二人との記念写真も、このように撮ることができました)

この貴重な体験から、はや4カ月が経過しました。今後は、今回の1000チェロでできた繋がりを活かして、日常活動としてのチェロアンサ

1000チェロがない年には、毎年5月に「チェロアンサンブル・コンテストinかさおか」を開催する予定です。今回の1000チェロをきっかけとして新しいチェロアンサンブルの輪を抜けていただき、ぜひ、「かさおか」へお越しください。詳しいことをお知りになりました方は、左記までお問い合わせください。

E-mail konhtar@kcv.ne.jp

電話 090・3746・8923



## 1000人チェロ広島大会に参加して

丹羽能里子（大阪、4番パート）

このたび第4回1000人のチェロコンサートを開催していただき、参加することができて感謝しています。今回は広島県の地で開催されコンサート趣旨が「世界の平和」ということで

したので、その思いを心に準備期間を過ごしました。私は3回目の参加でしたが、お馴染みのチェリストと久しぶりの再会を喜んだり、話はずみ、楽しい時を過ごせました。これもまた1000チェロの楽しみです。

いつもながら楽譜が届いてからは譜読み時間がかりますので、せつせと練習に励みました。分奏に出て初めて曲の感じがわかり、楽しめることが

きたように思います。今回は指揮者の田久保先生が毎回ご指導くださり、熱い指揮にひきこまれて練習も楽しむことができました。ありがとうございました。どうございました。

ゲリンガス先生の感動の演奏と指揮、世界各国からご参加の素晴らしいチェリストの先生方にリードしていただき、演奏中は824人（参加者と指揮者）の心が一つになっていたと感じました。あの響きの余韻はいまも心に残っています。

準備を整えてくださった皆様に感謝します。音楽の喜びを共有するだけでなく希望や祈りを同じくする1000チェロコンサートがこれからも続いていくことを願っています。（今から2番目が丹羽さん、コンサートの看板が入っているところが気に入っているそうです）

## 「1000人相手でも妥協しない」指揮に、目からウロコ

宮崎比呂志（前橋、1番パート）

仕事が多く「休みにくい」週末だったのに加え、6月にアマオケ大会で札幌に行くことがすでに決まっていたこともあって最後の最後まで迷っていたのですが、参加させていただきました。そんな関係で

某弦楽器専門誌のアンケートの「参加のきっかけ」に対する答えは「今回に関しては」義理と人情。ただ、すべてが終わって広島駅の新幹線改札口に切符を通す時は、「後ろ髪」をひかれる思い！

無理して行ってよかったです。

思い起こせば「初参加」は第2回。その後天童や旧山古志での「関連行事」などにも参加しているので正直言って「またか」というような曲も多く、それも「今回はパスしようかな」という気持ちの原因の一つだったのですが…

少なくともゲリンガスさんが指揮した曲は、「目からウロコ」みたいなところが何箇所も。無理して行ったかがありました。

練習では、「そんなにテンポ揺らしては無理じゃないの」と思ったのですが、本番は、それにしっかரிついていった感じ。また、練習の際、かなり「ニュアンス」に関する話をしていたのですが、早口だった上、通訳（ポランティアの方だったらしい）が、細かい点まで訳してくれなかったので、十分、理解できたわけではないのですが、それでも「何となく」やりた

いことは伝わっていたみたい。

「1000人相手でも妥協しない」という点では、第3回のロストロフ大先生に通じるものがありますね。

1000チェロの場合、楽器経験も少なく、

「アンサンブル経験は皆無」の人が毎回、参加者の中に一定数いるのですが、今回はそういう方の比率が高かったのか、「原爆」の冒頭や「ブラジル風パッサダ」の何箇所かは本番当日の午前中の段階でも「ちよつとこれでは…」みたいな感じでしたが、本番の際は、「一応」解決していました。

「練習は不可能を可能に」しますね。

それと「広島」での開催。

私自身はそれまでも広島や長崎は何度も訪れていますし、被爆者の方のお話を聞いたこともあります。

それだけに開演を告げるチャイムが、毎年8月6日に行なわれる慰霊式典の際に鳴らされる鐘の音にダブってしまいました。あの音を聞くとき「ああ、被爆地広島での演奏会なんだな」との思いで、ぐつと来

ました。

アマオケの運営に関わってきたこともあり、昨今の経済状況を反映して参加費の他に寄付や補助金を加えてようやく開催できる「立派な」演奏会の開催が難しい時代になっていることを強く感じています。それだけに1000チェロの今後の活動スタイルも問われているのかもしれない。



その後、皆さんいかがお過ごしですか。

私は千葉県からこのたび初めて参加いたしました。ですが実は広島出身です。子どもの頃からバレエを観るにつけずっと憧れたったチェロを始めて27年。当時、転勤で広島に来ていた主人とは広島JMJオーケストラで知り合いました。そして結婚してこちらでの生活となったのです。子育て中はずっとチェロケースに蓋をしたままでしたが、主人が仲間と地域に室内合奏団を立ち上げたのをきっかけに、12年の眠りから再び皆さんの知るこの世界に還ってきて、さらに10年が経ちました。

「1000人のチェロ」は第一回目から注目していました。「あの人行ってきたんだって」と耳にするたびに私もいつか参加できたらいいなあと、このコンサートの参加は私の夢でした。

そして子育ても一段落し、長年の夢が実現できる日が遂にやってきました。何より今回は開催地が私の生まれ育った広島と知り、いってもたってもいられず早速カレンダーに受け付け開始日を丸で囲み、ワクワクしながらその日を待ちました。指揮はあのゲリンガス氏と田久保

先生！（友の会会員です）そして本番の日は、丁度母の一周忌を行なう頃ではありませんか。私はチェロを持って帰郷したら親戚の方たちにチェロの音色に乗せて母への想いを歌い聴いてもらいたいと、母が亡くなる前に背中を擦りながら一緒によく歌った「赤とんぼ」の楽譜もカバンに詰めました。

少し私の両親の原爆にまつわる話をさせていただと、原爆が落とされた翌日、母が友人と中学校に登校してみると大勢の被爆、あるいは焼け出された方たちが天井の抜け落ちた体育館に避難して来られていたそう、壁にもたれ掛かって座っていた男の人から「水が欲しい」と言われて迷った末に、柄杓ひしゃくで水を飲ませてあげたんだと話してくれたことがあります。「出産後に「ことごとく歯が抜けてしまったのは、そのためかしら」と母から聞いて、私は身がすくみました。

そして、当時中学生だった父の兄は、爆心地近くの工場で亡くなり、私の祖母はまだ熱の残った体をまたいで、毎日我が子を探し歩いたと聞いています。父もあと一年早く生まれていたら、私は存在しなかったかもしれません。広島の子どもたちは小学校の頃から原爆

の恐ろしさ・痛み・悲しみなどの話題に触れ、子どもなりに考え、意見を述べる授業があります。

今回の「1000人のチェロ」は「平和へのメッセージをチェロの音色に乗せて」でした。広島で育った私は、是が非でもその一部分と

なつて平和の尊さ・戦争の悲しみというメッセージを送りたいと強く思いました。

そして今年5月14日、私より一日遅れて主人が娘たちを連れ、広島入りました。さあ、いよいよ本番が迫ってきました。

2日目、母の一周忌法要の後、5時からの練習場所に主人と一緒に向かいました。アリーナの高い天井と、広いフロアに並



べられた椅子の光景に圧倒されるばかり。すると、向こうから今回ゲリンガス氏の通訳やプログラム作成のための翻訳などのお手伝いを用意してくださっていた懐かしい友人（京子・リセツキさん）のお顔が！ そう、彼女に「1000人のチェロ」のボランティア募集のことを話したところ、応募してくださっていたのです。京子さんはアメリカ人のご主人と長年ボートで地球を渡り歩き、かのベネズエラ・ユース・オーケストラでは地元の子どもたちにボランティアでヴァイオリンを教えたり、裏方としてお手伝いしたりと、とても行動力のある方なのです。お気つきの方もいらつしやると思いますが、京子さんの通訳は自分の経験・知識を通してされており、子どもたちにも分かりやすいものでした。彼女と一緒に「1000人のチェロ」の一部になれて、私はとても幸せでした。この場を借りて、京子さんに感謝の気持ちを送ります。

話は戻りますが、その緊張する中で、東京の練習会場で何度か御一緒した方たちとお会いすると、とても気持ち落ち着きました。なんだか、外国で日本人にあった時の気分です。でも、練習が始まると皆さんは私の一部でした。本番中は音と私、そして指揮者の目と指揮棒の点しか存在しませんでした。そして、その音の渦は私を揺さぶり、

私もその中に自分の想いを乗せました。弾き終わった時はとても満足  
感じていっぱいでした。実は、リハーサルの時、主人から「周りに置か  
れたチェロケースが人影に見えて、演奏する君たちを見守っているよ  
うに見えた」という言葉を聞いて、私は私なりの使命感が込み上げて  
きたのです。

今振り返って、1月の練習から本番まで一言で言えば、やっぱり「楽  
しかった！」そして、この日のために準備をしてくださった松本さ  
んをはじめ、諸先生方、そして役員・ボランティアの方々、家族も含

## 素晴らしい「人との出会い」を与えてくれました

長かった夏がようやく終わり、5月の広島が思い出されるような、  
爽やかな天気が続いています。演奏、そして取材をさせていただいた  
今回の1000チェロは、私にとつて忘れられないできごとです。

弦楽器専門誌の「サラサテ」編集部に入ってから初めての出張取  
材。期待半分、不安半分で向かった広島では、想像以上の体験が待ち  
受けていました。

広島入りして早々、練習の合間を縫って、全国の分奏リーダーの中

合いにも配るよ」……こんな調子で、協力的な方はかりの大変恵まれ  
た取材現場でした。

本番前夜、会場内のロッカーに荷物一式を置き忘れてしまつて思わ  
ず脱力したこと。練習やパーティ会場の出入口で（お酒も飲まず）ゲ  
リングスさんを待ち伏せしたこと、もじもじしていて先輩に怒られた  
こと。楽器に加えて見本誌やアンケートの束、一眼レフを携えて走り  
回っていたためか、帰りの新幹線で人生初の腰痛に襲  
われたことなど……しょっぱい思い出もありません  
が、すべて記事の完成で吹き飛びました。

チェロを通して、素晴らしい「人との出会い」を与  
えてくれた1000チェロ。取材、アンケートを通  
してたくさんの方のチェリストの声が聞けた上に、10代か  
ら70代までの大家族のようなチェロ仲間ができたこと  
は大きな収穫でした。

最後になりましたが、この場を借りて厚くお礼申し  
上げます。多大なるご協力をありがとうございました！  
未熟者ですが、今後もサラサテともどもよろ  
しく願います。



平和記念公園にて（左端が筆者）。原爆  
の痕跡を直接目にして、戦争は他人事  
ではないと改めて感じました



サラサテ vol.35 のチェロ特集  
で、大々的に 1000 チェロを紹介。  
アンケートにインタビューに大忙  
しの編集内容が伝わってきます

偶数月1日発売 A4変型判  
定価 1,260円（税込）  
バックナンバー購入および  
年間予約はWEBサイトをご  
覧ください。  
<http://sarasate.me/>  
〈問〉tel.03-5414-5929  
[shop@sarasate.jp](mailto:shop@sarasate.jp)

め何千人もの力の上で、この素晴らしい思い出がただけだことに、  
心から感謝いたします。

最後に、聴きに来てくれた姉が「あれだけの人数で、一つの音楽を  
一糸乱れず作り出していることを目のあたりにして、とても驚き、感  
動した」と興奮して話してくれたことをここに伝えたいです。

皆さん、ありがとうございました。  
また、次回、さらに仲間を増やし、一緒にしたいと思います。

## 安田 真子（東京、3番パート、サラサテ編集部）

から13名の方をインタビュー。各地の分奏の様子を教えていただきま  
した。どの方も、初対面とは思えないほど親しみを持ってお話ししてく  
ださって感激。首都圏以外のチェリストとも直接触れ合える貴重な機  
会となりました。

さらに、会場内では「チェロアンケート」を一斉配布！ベンチに  
腰かける、婦人に、緊張しながらアンケートを手渡すと「サラサテ  
読んでいますよ」とにっこり。パート練習で隣の方に渡すと「知り



## 1000人のチェロ 日独修好150年記念親善演奏旅行

在ドイツ日本大使館・日本人商工会とタイアップで1000人のチェロ第3回目のドイツ演奏旅行を行います。

詳細は2011年春以降にご案内させていただきます。

私たちは2000年3月と2006年1月にベルリン・ミュンヘンに親善演奏旅行を行いました。参加された方々には「次はいつ?」と口々に言われるほどの感動と思い出一杯の素晴らしい旅行でした。今回もドイツ精通の弊協会事務局長/松本巧がファルアテンドさせていただきます。

現在の計画では

- 時期：2011年10月または11月
- 結団地：ドイツ/ベルリン・ミュンヘン、など
- 期間：7~10日間
- 費用：25万円前後(個人的費用と昼食・夕食別、ツインルーム)
- 演奏：ベルリンフィル、ミュンヘンフィルとともに各地で100人規模の合同チェロアンサンブルコンサート
- 楽器：現地でレンタルです
- 資格：チェロを弾かない方も大歓迎、観光参加OKです
- 主催：NPO国際チェロアンサンブル協会
- 連絡先：info@1000cello.vc Fax.078-805-2008  
NPO国際チェロアンサンブル協会事務局



2006年1月15日ベルリン・フィル・ミュージックセンターで1000人のチェロアンサンブルを演奏しました。

きっと、今までと同様に人生の思い出に残る素晴らしいドイツ演奏旅行になるものと思います。今から来年秋のご予定に組み入れていただければ幸いです。



広島での1000人のチェロの響きを静かに聴いていたチェロケース。チェリストの世界平和への願いを込めた演奏に、あなたたちも満足げな様子でした。あれだけ暑かった夏から秋になり、冬が近づいてきましたが、今も、あなたたちは、それぞれの街で素晴らしい音楽に囲まれ、豊かな響きを支えていることでしょうか。どうぞチェロを大切に。またの日の再会を願い、今回の特集号を終えることにします。



**CELLISSIMO  
GRANDIOSO**

発行：NPO 国際チェロアンサンブル協会

〒657-0856 神戸市灘区岩屋南町 2-22

tel.078-805-2001

<http://1000cello.vc/>

発行人：松本 巧 編集・デザイン：新 巳喜男